

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400378	
法人名	株式会社ホライズン	
事業所名	グループホーム三和	
所在地	福島県いわき市三和町渡戸字峠平33番地の1	
自己評価作成日	令和4年8月16日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和4年8月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位の介護を目指し、利用者・職員一人ひとりの思いを受け入れ、その人の持っている力を活かしながら、介護する側にもゆとりをもって貰えるような環境作りを目指しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者・管理者と職員の意思疎通を図ることを大切にし、運営や一人ひとりのケアのあり方やこれからの方針を話し合うなど、風通しの良い事業所を目指している。  
地域の消防団等と連携して避難訓練を実施するなど、地域の介護や災害時の拠点となるよう、普段から地域の方と共同で取り組むことを大切にしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時、全職員が意見を出し合いながら作りしました。毎朝の申し送りで状況の変化を共有しながら、日々の生活が送れるよう努めています。	安全・安心した生活をするという事を掲げているので、利用者の笑顔を見ている時に、理念が活かされていると感じている。職員には、自分が利用者の立場だったら、どんな風に職員に対応してもらいたいかを考えてもらい、理念を活かせればと考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の人たちと言葉や挨拶を交わしながら散歩しています。季節の野菜を貰うこともあり、利用者に喜ばれています。	地域のボランティアで、カラオケや、ハンドマッサージに来て貰っている。中学校の福祉体験学習で、利用者と話してもらったり、クイズなどをして楽しんで貰っている。散歩の時に、隣の家の方と話をしたり、お茶をご馳走になったりして交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の福祉体験学習で、認知症の理解や支援や支援を学ぶ機会があります。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告をしながら、課題に取り組んでいます。ヒヤリハットをあげてもらう事で事故を防げる大切さを教えてもらいました。	薬を服用してもらうときは、手渡すだけではなく間違いがないか確認するべきとの意見を貰い、薬の品名と飲んだことを確認するようにしている。会議を通して取り組みたい事柄を探したり、会議を活性化するために様々な研修を通して意識を高めようとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染症対策の取り組みの評価やアドバイスをもらいました。	市の職員とは、事業所の現状を報告し、課題に取り組んでいる。市から感染症対策で、アドバイスをうけ、職員と共有している。市には感染症対策に向けた物品をを定期的に配布して欲しい。市と連携するために、密に連絡を取り合う事が大切と考えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、全職員で話し合い、共有しながら、意識を高めあっています。	身体拘束となる行為を理解し、職員間で互いに意識付けしあっている。言葉の拘束については真剣になるあまり声が大きくなってしまふ事があり、そのようなときは他の職員が対応するなどしている。一人歩きする方には、職員が近くで見守りをするようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	精神的・身体的な虐待など、見過ごされる事がないよう気を配っています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、外部研修で学び、今後活用できる利用者がいれば支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をし、不安や疑問な点を確認し理解を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した時や、電話等で、利用者の状況を伝え、意見や要望を聞き入れています。いただいた意見や要望は、事業所内で共有し活かせるようにしています。	居室の掃除について意見をもらい、居室担当を決め、細かい部分の清掃や整理整頓を行うようにしている。意見や要望は、事業所をよくすることと受け止め、明るく笑顔で対応している。いただいた意見や要望は管理者・職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	トイレ利用の頻繁な利用者の居室移動について、本人・家族と話し合い実現しています。	待遇改善について要望があり、代表者と職員が納得するまで話し合い、職員の意欲もあがり運営が円滑になっている。意見や提案を出してもらえよう日常のコミュニケーションを大切にしている。代表者も、現場に入る事で現場を理解し、職員の意見を大事にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や、勤務状況について把握し、給料に反映させています。また、働きやすい環境作りにも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の外部研修の参加が少ないので、少しでも多く参加させて、職員一人ひとりの技術の向上に努めたいです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流のある施設と、研修や情報交換、ネットワーク作りでお世話になっており、今後も充実させたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始する前にしっかりと話し、要望等に耳を傾け安心できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場として、疑問や要望等を聞き入れて、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームという選択がベストなのか、今までの状況の経過を家族や関係者と話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共に支えるという形で本人を支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支えるという形で本人を支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が困難な時であっても、時間短縮したり、距離をとり、マスク着用で対応をとりながら、これまでの関係が途切れないようにしています。	現状では困難だが、これまで職場の同僚の方の訪問を受け入れたり、行きつけの美容室に行くなど関係が継続できるようにしている。最近では、電話でのやり取りが中心になっている。馴染みの人との話から得た情報は職員間で共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、良好な関係が継続できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、関係性を大切にしながら、必要に応じて利用者や家族の相談や支援ができるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声掛けや動作からその人の思いを把握するようにしています。言葉の出ない方には、筆談でコミュニケーションを図る工夫をしています。	入浴の時に思いを聞くことが多く、なかなか家族が来ない事へは、感染症の状況を説明し、電話や手紙での交流をしてもらっている。把握した思いや意向は 日々の申し送りで共有し、ケアに活かせるようにしている。利用者と職員のコミュニケーションを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に、生活歴やこれまでの経過等についての情報収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との会話や、職員からの情報も含めて現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人にあった個別の具体的な介護計画を作成するようにしています。一人ひとりの持っている力を、できるだけ維持できるようにしています。	本人や家族の希望を基本として、その人に合った個別の具体的な介護計画を作成している。その人の持っている力を活かしたり、維持できるようにしている事や、支援する事でできる事などをしっかり分析し現状に即した計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から職員間で情報共有し、よりよい支援の方法の模索をして、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応すべく、柔軟な対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源を把握し、有効に楽しめるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が基本的には受診しており、受信結果は家族に連絡をし共有しています。家族対応の場合は、日頃の様子や変化を細かく伝えています。	家族の希望を確認し、これまでのかかりつけ医の継続を基本にしている。歯科や耳鼻科などの専門診療科目への対応は事業所が行っている。家族と事業所は受診結果を共有を、家族対応で受診する時は、生活状況をメモで伝え、受診が円滑になるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気づきがあれば、速やかに訪問看護師と連絡をとり、指示を受けています。また、普段から相談や報告をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院設備があるため、入院中の状態や、経過、また今後の方針を含めて、相互に情報交換できる関係です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、本人や家族と重度化についての話し合いを行い、意向を確認し、共有しています。かかりつけ医と相談しながら、本人や家族が、安心して納得できるケアに繋いでいます。	重度化や終末期には、家族と密に連絡を取り合い状況をもれなく伝えるようにしている。事業所としてできることを伝え、家族の希望を聞きながら、医師や看護師に相談し、本人・家族が安心するとともに、悔いのないケアができるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は全職員が講習を受け身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	どんな状況でも最短の避難ができるよう、日頃より廊下に物やコードを置かず、安全な避難経路の確保に努めています。	地域の消防団と合同で非常時の訓練を行っている。消防署立ち合いの訓練後に、自立している利用者の方に利用者の避難に協力してもらうようにとのアドバイスを貰っている。職員は年に一度以上訓練に参加できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	下着の交換は、一人ひとりの気持ちを大切に考え、目立たず、さりげない誘導で居室で行っています。洋服選びも本人に任せ、思い思いに楽しんでもらっています。	職員は、プライバシーを考え名前ではなく、インシヤルで申し送りをしている。仕事で知りえたことは、漏洩しないと同意書を買っている。利用者への言葉かけやコミュニケーションが一方的にならないよう、相手の気持ちを確認しながら話をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望がなかなか表現できない方に対して、思いを出せるように努めています。また、自己決定を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを優先し、希望に応じた生活リズムになるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容や洋服の選択なども、本人の意向を重視し、生活感があるおしゃれができるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、食べたい物を聞きながら、毎日の献立作りを行っています。食事の準備や片付けを、職員と共に手伝いをしてくれています。	カロリーやバランスを考え、利用者や職員の希望などを取り入れたり、本やテレビからヒントを得てメニューを作成している。一人ひとり自分のペースで食事ができるようできるよう、その人の食べる力に合わせて調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのよい食事を提供しています。また、一日の食事量と水分を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の力に応じた口腔ケアの支援を毎食後行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレで排泄できるようにしています。失敗した時、落ち込まないよう声掛けし安心してもらっています。	できるだけトイレで排泄することを目標にしている。職員のごまめな声掛けや誘導で、日中オムツからリハビリパンツになった方がいる。自立に向けて、職員は失敗しても落ち込まないよう声掛けしたり、プライバシーに配慮して周囲に聞こえないようさりげない誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や運動で、できるだけ自然に排泄できるようにしています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を用いて楽しんでもらっています。浴室と脱衣所の温度差をなくし、体に負担のかからないようにしています。	一人ひとりのこれまでの生活習慣を尊重した入浴時間に行っている。嫌がる方には、職員を変えて対応している。入浴剤を用いたり、好みのシャンプーやボディソープを使用し楽しんで入浴してもらっている。衣類の着脱はできる所は本人にお願いしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調やペースに合わせて休息できるようにしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬の内容や副作用を理解し、きちんと、服薬できているのかの確認も行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割について、日常生活の中のできる事や、やりたい事を実施してもらい日々生活しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外の空気にふれてもらうようにしています。車イスの方も近くを散歩し、花を摘んできたりしています。	外の空気や光を浴びることの意味や役割を考慮して、機会を増やしている。職員と一緒に買い物し、欲しい物を選んでもらっている。行事で出かけるときは、車イスの方が利用できるトイレを事前に調べている。季節を楽しむ事のできる花見や紅葉狩りに出かけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の希望や力に応じ、お金の所持・使用をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々電話のやりとりを行っています。手紙も届くので楽しみにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染症対策として、消毒・清掃・換気をこまめにするようにしています。加湿器の利用や洗濯物を干し、温度・湿度の調整をするようにしています。	利用者は日常、居室と共有空間を自由に行き来している。一人ひとりの居場所や好みの場所は、利用者の希望を確認しながら対応している。歩行や移動のための動線を確保するために、物やコードを置かないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で、独りになったり、気の合う方々で談笑している場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室に入る時は、声掛けするなどプライバシーへの取り組みをしています。ゴミ箱を片付けてくれたり、一緒にモップ掛けをしてくれる方もいて、清潔に保てるようにしています。	馴染みの物や慣れ親しんだ大切な物を自由に持ち込んで貰っている。身体状況に合わせて、ベッドなどの配置を使いやすいように確認している。居室を間違わないよう名前を書き声掛けをするようにしている。清掃や衣替えは、利用者と職員が一緒に行い、清潔にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所、居室については、混乱しないような配慮しており、できるだけ自立した生活が送れる工夫もしています。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35(13)	夜間想定での避難手順が身につけていない	職員全員が避難手順を身につける	二ヶ月に一度は避難訓練を行う	6ヶ月
2		g			ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。